

令和 3 年度 活動報告書

熊本県地域医療支援機構 / 熊本大学病院 地域医療支援センター
熊本大学病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座



もくじ

1 はじめに

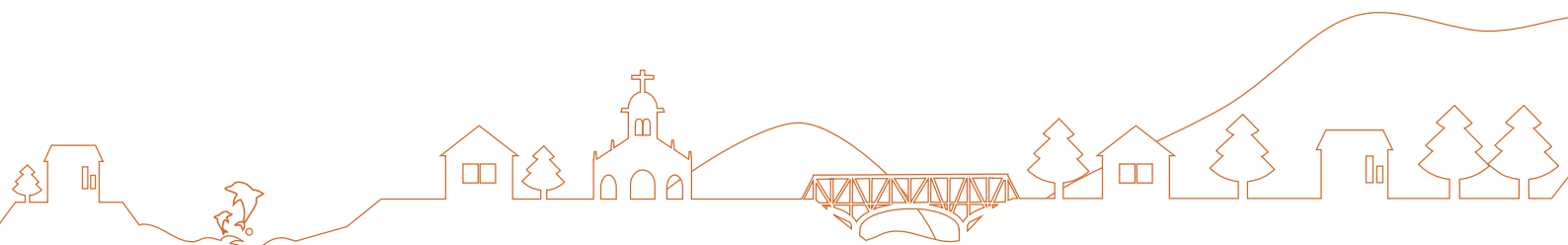
1. 熊本県地域医療支援機構理事長あいさつ	1
2. 地域医療支援センター長あいさつ	2
3. スタッフ一覧	3

2 熊本県地域医療支援機構 (熊本大学病院 地域医療支援センター)

1. 活動概要	4
2. 活動報告	
I. 地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師の キャリア形成支援	5
II. 地域の医療提供体制の確保に向けた支援	7
III. 県内医療機関等との連携協力関係の構築	8
IV. 医師に関する求人・求職などの情報発信と相談対応	8
V. その他	9
VI. 女性医師キャリア支援	14

3 地域医療・総合診療実践学寄附講座

1. 活動概要	20
2. 年間活動実績	20
3. 活動報告	
I. 地域医療支援（診療支援）	21
II. 調査・研究	21
III. 教育活動	22
● 卒前教育（カリキュラム外教育）	22
● 卒前教育（カリキュラム内教育）	22
● 卒後教育（初期臨床研修・専門医研修）	27



IV. 専門医資格修得後のキャリア支援について	30
V. 講演会	30
4. 専攻医の声	32

4 教育拠点

<<まもと県北教育拠点>>

1. 活動概要	34
2. 年間活動実績	34
3. 活動報告	
I. 教育活動	35
II. 診療	37
III. 年間診療報告	37

<天草教育拠点>

1. 活動概要	38
2. 年間活動実績	38
3. 活動報告	
I. 教育活動	38
II. 診療	39
III. 年間診療報告	39
IV. セミナー	39

<河浦教育拠点>

1. 活動概要	40
2. 年間活動実績	40
3. 活動報告	
I. 教育活動	40
II. 診療	41
III. 年間診療報告	41
IV. セミナー	42



5 熊本県医師修学資金貸与制度

1. 地域医療ゼミ	
I. 概要	43
II. 活動報告	43
2. 令和3年度卒業生	45

6 地域医療連携ネットワーク実践学寄附講座

1. 活動概要	49
2. 活動報告	50

7 業績

1. 地域医療支援センター	53
2. 地域医療・総合診療実践学寄附講座	54
3. 教育拠点	56
4. 総合診療科医局員・専攻医(総合診療専門研修プログラム)	57

8 おわりに

1. 教員から	58
2. 事務から	65
3. あとがき	68

はじめに

1. 熊本県地域医療支援機構 理事長あいさつ



熊本県地域医療支援機構 理事長
熊本大学病院 病院長

馬場 秀夫

皆様方には、平素より「熊本県地域医療支援機構」、「地域医療・総合診療実践学寄附講座」及び「地域医療連携ネットワーク実践学寄附講座」の取り組みに、多大なご支援とご協力をいただき、深く感謝申し上げます。この度、令和3年度の活動報告書を作成致しましたので、ご一読いただければ幸いに存じます。

熊本県地域医療支援機構は、平成25年12月に設置され8年目が経過しました。「地域医療・総合診療実践学寄附講座」は、設置から6年が経過し、令和4年度以降も継続することとなりました。また、「地域医療連携ネットワーク実践学寄附講座」につきましても、設置より3年が経過しましたが、引き続き寄附講座としての事業を展開していくこととしております。

さて、私は昨年4月に熊本大学病院長を拝命し、県内の主な医療機関をお訪ねする機会を得ました。熊本県の医師数は全国的に多いとよく言われますが、熊本市は人口10万人当り医師数419名、一方熊本市外は約190名と医師の偏在が顕著であり、まだまだ地域の医師不足は解消されていないと実感しました。また、地域においては、深刻な人口減少と高齢化に加え、昨今のコロナ渦の中、地域住民に適切な医療サービスを提供するために、各医療機関非常に苦勞されている実態を肌で感じてまいりました。

地域における持続的かつ適正な医療提供体制を確保するために、医師を派遣する立場の熊本大学病院と、医師の地域偏在の解消のための業務を実施する熊本県地域医療支援機構の長として、熊本県と連携して取り組みを進める必要があることを強く心に留めたところです。

新型コロナの猛威は3年度も引き続き、地域医療支援機構事業、寄附講座事業についても昨年度以上に当初の計画の中で中止、変更、縮小といった決断をせざるを得ない状況もあり、十分な取り組みが出来なかった面もありました。しかしながらオンライン配信等々の工夫をこらし、事業の歩みを止めることなく、できることを一つ一つ着実に取組んでまいりました。

本県の地域医療を取巻く状況が厳しい中、「熊本県地域医療支援機構」、「地域医療・総合診療実践学寄附講座」、「地域医療連携ネットワーク実践学寄附講座」が連携して、それぞれの役割を果たしながら、(1)地域医療を志す医学生や地域医療に従事する医師のキャリア形成支援、(2)地域の医療提供体制の確保に向けた支援、(3)学生に関する地域医療マインドの涵養、(4)総合診療医の育成、(5)地域医療拠点病院を核とする圏域の医療機能の向上、(6)新専門医制度における修学資金貸与医師等のキャリア形成の支援等について、継続的に更に推進していくこととしています。

今後とも熊本県、医師会、市町村並びに地域医療関係者などの関係諸団体との連携を一層強化し、県内各地のニーズに沿った地域医療が提供されるよう努力してまいりますので、変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

(令和4年3月吉日)

2. 地域医療支援センター長あいさつ



熊本大学病院 地域医療支援センター センター長
熊本大学病院 総合診療科 教授

松井 邦彦

熊本県地域医療支援機構／熊本大学病院地域医療支援センター、熊本大学病院地域医療・総合診療実践学寄附講座、および熊本大学病院地域医療連携ネットワーク実践学寄附講座の、令和3年度の報告書をお送りいたします。ご高覧いただければ幸いです。

新型コロナウイルス感染症の流行が及んだこの2年間、私たちの生活様式は大きく変わりました。地域枠入学の熊大生を主な対象とした夏の地域医療特別実習は連続の中止となり、その他の様々な活動についても縮小や中止せざるを得ない状況が続いています。そのような中、熊本県医師修学資金貸与制度の第1期生の方々は、令和3年度には卒業後7年目を迎え、医師としてのキャリアを確実に積み重ねつつ、義務の償還も着々と行っていただいています。他県と比べ医師数としては比較的恵まれている熊本県ですが、熊本市内への集中は以前より言われているところであり、県内の地域医療の現場では、医師不足はまだ深刻です。しかしながらこの医師修学資金制度や地域医療連携ネットワークの取り組みも含め、県や熊本大学病院が長年にわたり行ってきた様々な対策や努力の甲斐あって、県内地域で活躍される方々は確実に増え、その効果が実感されるまでになりつつあります。

私たち地域医療支援センターの責務には、まず医師修学資金貸与生の方々のキャリア支援があり、その上で義務の償還を円滑に進めていただくことができるよう、これらの両立を目指した支援が求められています。それには対象者ご本人のみならず、熊大病院の各診療科、そして県内地域の施設の皆さん方のご協力と信頼関係の構築が不可欠であり、それらの上に成り立つものと考えています。私たちは、熊本県医療政策課のご指導とご支援を受け、それぞれの関係者の間に立ち調整する役割を担っています。その重要性は、対象者数の増加と共にさらに増しつつあると思います。新型コロナウイルス感染症の流行は繰り返し、新しく導入される働き方改革がどのように影響するかも含め、県内地域医療の不安要因は多くあります。そのような中でも、私たちができること、やるべきことを一つずつ行うことで、解決を目指したいと思います。道のりは長く続きますが、今後ともご指導くださいますよう、よろしく願い申し上げます。

3. スタッフ一覧

◆ 熊本県地域医療支援機構(熊本大学病院 地域医療支援センター)

松井 邦彦 地域医療支援センター長
総合診療科 教授

谷口 純一 地域医療支援センター副センター長
(地域医療・総合診療実践学寄附講座特任教授)

後藤 理英子 特任助教
糖尿病・代謝内分泌内科

高柳 宏史 特任助教
総合診療科

古賀 義規 客員研究員
(御所浦診療所所長)

片岡 恵一郎 客員研究員
(小国公立病院病院事業管理者)

松岡 大智
地域医療支援コーディネーター

若杉 秀作
地域医療支援コーディネーター

高塚 貴子
女性医師復職支援コーディネーター

尾方 千穂 事務補佐員

横手 友紀子 事務補佐員

◆ 熊本大学病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座

谷口 純一 特任教授
総合診療科

北村 泰斗 特任助教
総合診療科

佐土原 道人 特任助教
総合診療科

山並 美緒 事務補佐員

山口 香 事務補佐員

◆ くまもと県北教育拠点(くまもと県北病院)

田宮 貞宏 熊本大学非常勤講師
総合診療科

小山 耕太 熊本大学非常勤講師
総合診療科

久保崎 順子 特任助教
総合診療科

◆ 天草教育拠点(天草地域医療センター)

松本 朋樹 特任助教
総合診療科

中村 孝典 特任助教
総合診療科

◆ 河浦教育拠点(河浦病院)

鶴田 真三 特任助教
総合診療科

◆ 熊本大学病院総合診療科医局員

武末 真希子

松田 圭史

空田 健一

平賀 円

◆ 専攻医(熊本大学病院総合診療専門研修プログラム)

永田 洋介
後期研修医4年目

早川 香菜美
後期研修医4年目

下地 徹
後期研修医3年目

本田 宏介
後期研修医2年目

松岡 隼平
後期研修医1年目



熊本県地域医療支援機構

(熊本大学病院 地域医療支援センター)

1. 活動報告

◆ 活動概要

熊本県地域医療支援機構は、熊本県と県から機構業務の一部を委託された熊本大学病院が協力して運営を行っています。当機構では、本県における医師の地域偏在を解消することを目的として、県内における医師不足の状況等を把握・分析し、医師のキャリア形成支援と一体的に、医師不足医療機関の医師を確保するため、様々な支援事業を実施しております。

令和3年度は、昨年度に引き続き新型コロナウイルスの感染拡大により、多くの事業において活動の縮小を余儀なくされた面もありました。しかしながら、熊本県医師確保計画(令和2年度～5年度)に基づき、医師修学貸与学生及び地域で勤務する医師が、地域で安心して勤務しながらキャリアを形成できるよう、一人一人に対するきめ細やかな支援を行うための体制の強化を図る観点から、コロナ禍にあっても熊本県から業務を委託された事業については、熊本大学病院が県と協力し、着実な事業の実施に努めてまいりました。特に面談・相談業務やセミナー等においてウェブ会議システムを活用して移動制限の影響の最小化と効率的かつ効果的な相談業務の充実を図るとともに、地域の医療機関における取り組みや地域医療の重要性を多くの人に理解いただくために引き続き広報誌を発行するなど啓発活動の充実に努めたところです。

また、専門研修に進む卒業後3年目以降の貸与医師等に対しては、専門研修プログラム従事前に知事指定病院の第2グループの病院で総合診療「特別研修プログラム」に参加して義務の償還を優先することを選択できる体制を構築し、キャリア支援の充実強化にも努めております。さらには、総合診療医育成のため、地域医療・総合診療実践学寄附講座と連携して、令和3年度から河浦病院に総合診療の新たな教育拠点を設置し、指導医を派遣し、地域での医療活動に従事しながら、専攻医の教育や研修医、学生の実習等の指導を行っています。

その他、女性医師キャリア支援においても地域を回り、地域医療に携わる女性医師と面談する中で、多くの課題や悩みを把握し、適切にかつ必要な助言を行い、熊本県と情報の共有を図っています。

【主な取り組み】

- ① キャリア形成プログラムに基づく修学資金貸与学生及び医師への面談等によるきめ細やかな支援(一人ひとりの状況に応じた助言、相談対応等)
- ② 貸与医師及び貸与学生全員に貸与制度及びキャリア形成プログラムの周知徹底
- ③ 医師修学資金貸与医師に係る翌年度の勤務先の調整
- ④ 医師が不足する医療機関への診療支援・研修医等教育支援
- ⑤ 熊本県地域医療連携ネットワークの構築に向けた全体調整
- ⑥ 女性医師のキャリア支援(就業継続及び復職支援等)
- ⑦ 地域医療支援機構講演会開催
- ⑧ 地域医療支援機構広報誌「COCODE ! (ココデ)」の発行

2. 活動報告

① 地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師のキャリア形成支援

1 キャリア形成プログラムに基づく修学資金貸与学生及び医師へのきめ細やかな支援(一人一人の状況に応じた助言、相談対応等)

一 熊本県医師修学資金貸与医師・学生の面談 一

- 医師修学資金貸与医師については、47人全員を対象に令和3年7月～8月に実施し、キャリア形成と義務履行の両立に関する本人の考えを聞き取り、本人の経験年数に応じて、必要なアドバイスをいたしました。
- 医師修学資金貸与学生については、40人全員を対象に令和3年5月に面談を実施し、将来の希望の聞き取りや学生生活の状況等を聞き取り、生活面、学習面等個人ごとに必要な助言を行いました。また、6年生に対しては、将来のキャリアプラン等を聞き取り、進路について個別具体的なアドバイスを行いました。
- また、医師、学生全般に対して、修学資金貸与制度の周知、キャリア形成プログラムの内容の周知等を図りました。

2 熊本県医師修学資金貸与条例に規定する知事指定病院等における医師不足の状況等に関する調査・分析、総合診療医など地域で必要とされる医師に関する情報提供等

- 今年度は、昨年度実施した知事指定病院調査の回答結果から、基本領域の診療科ごとの通院患者数、入院患者数、医師数、各医療機関の常勤医の年齢分布等を整理して、第1グループ、第2グループ、第3グループそれぞれの医師の充足状況等の把握、グループ毎に必要な医師等について、状況を把握し、県に報告しました。

3 医師修学資金貸与医師に係る派遣計画案及びキャリア形成プログラムの作成、負担軽減策の実施

- 貸与医師及び貸与学生全員に面談時に貸与制度及びキャリア形成プログラムについて説明して周知するとともに説明会を実施しました。
- キャリア形成プログラムの更新において、更新案に関する修学資金貸与医師、学生の意見交換会を実施しました。県では、これらの意見も反映した更新プログラムを作成しました。
- 修学資金貸与医師の勤務先決定については、「熊本県医師修学資金貸与医師キャリア形成プログラム」において、県内各地域における医師不足の状況や本人の意向、研修先・勤務先の状況等を踏まえ、県及び地域医療支援機構において勤務先を調整した後、熊本県地域医療対策協議会で協議・決定することとされており、当機構としては、この基本的な考え方を踏まえて、来年度の修学資金貸与医師の勤務先案を作成し、熊本県地域医療対策協議会で原案通り承認されました。
- この結果、令和4年度は、医師業務3年目以上の修学資金貸与医師42人のうち、地域の病院での勤務者26人と3年度(18人)より8人増加した。また、地域医勤務者のうち13人が、へき地の病院や診療所である第2グループ、第3グループの知事指定病院で勤務することとなっています。
- また、13年前に本県に医師修学資金貸与制度が創設されて以来これまでのところ、県の同意のないまま義務を履行せずに制度からの離脱した者は一人もおりません。

4 医師修学資金貸与医師の専門研修プログラム修了後における派遣ルールづくり

- 貸与医師が選択したすべての診療科において、キャリア形成プログラムに基づき、出来る限り早期に義務年限の償還が果たせるよう各診療科と協議しながら、勤務先の決定を行うこととしています。

5 初期臨床研修及び新専門医制度(総合診療専門医の養成支援)への対応

● 初期臨床研修への対応

本学の学生及び将来初期研修を熊本県内の医療機関で実施することを希望する県外の学生を対象に、県が主催する県内の基幹型臨床研修病院の合同説明会を当機構においてリモートにより(ZOOM)実施しました。

● 新専門医制度(総合診療専門医の養成支援)

オンラインで開催される全国会議等で、総合診療専門研修プログラム紹介のPRポスター・チラシをウェブ会議に掲載したり、本学内の専門研修プログラム説明会でPRするなど、地域医療・総合診療実践学寄附講座と連携して、プログラムの紹介に努めました。今回、当プログラムに1人の参加がありました。また、総合診療科の専攻医に対してテレビ会議システム等を利用した合同カンファレンスやレジデントデイを実施し総合診療医としての能力向上に必要な助言、指導を行っています。

6 総合診療専門医及び指導医の養成、確保の支援

- 地域医療・総合診療実践学寄附講座との連携で、地域医療・総合診療に係る3つの教育拠点(天草、河浦、くまもと県北病院)において専門医・指導医の育成の充実を図っています。新専門医制度の適用が始まった今年度、総合診療専門医が4人誕生しました。

7 地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師を支援する制度の運営

- 医師修学資金貸与医師のキャリア形成支援として「地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師を支援する制度」への登録を推進しました。
- 貸与医師が義務の履行とキャリア形成の両立が図られるように、各診療科と県、地域医療支援機構が連携して取り組むこととしています。
- また、地域医療ゼミ等を活用して、熊本県修学資金貸与制度、キャリア形成プログラムについて、貸与医師・学生に繰り返し説明し、周知に努めています。

【熊本県医師修学資金貸与人数一覧 (2022年3月現在)】 (単位:人)

区分	年数・学年	地域枠	一般枠	県外枠	計	男	女
後期研修 /地域勤務	7年目	-	3	-	3	2	1
	6年目	4	1	-	5	3	2
	5年目	4	4	-	8	7	1
	4年目	5	2	-	7	4	3
	3年目	5	4	-	9	7	2
	小計	18	14	-	32	23	9
臨床研修	2年目	4	6	-	10	8	2
	1年目	5	0	-	5	3	2
	小計	9	6	-	15	11	4
在 学 生	6年生	8	3	1	12	8	4
	5年生	4	1	0	5	1	4
	4年生	6	1	0	7	1	6
	3年生	5	0	1	6	2	4
	2年生	5	-	-	5	4	1
	1年生	5	-	-	5	2	3
	小計	33	5	2	40	18	22
合計		60	25	2	87	52	35

在学生 40 人 / 初期研修医 15 人 / 後期研修又は地域で勤務する医師 32 人 男女比は、全体で6:4

8 学習・診療支援オンラインツールの提供

- 「今日の臨床サポート」及び「プロシージャーズ・コンサルツ」の医療情報を提供するためのIDパスワードを医師修学資金貸与学生・医師、自治医科大学学生等に付与し、必要に応じて様々な医療情報を入手できる体制を充実させました。
- 特別臨床実習（クリクラ）を受講した学生に、実習医療機関での「今日の臨床サポート」及び「プロシージャーズ・コンサルツ」の医療情報を提供し活用を図りました。

II 地域の医療提供体制の確保に向けた支援

1 診療・診療支援

熊本大学病院においては「総合診療科」の外来診療を月曜日から金曜日まで実施し、学外において地域医療支援機構所属の教員が複数の地域の医療施設で下表のとおり非常勤の医師として診療支援を行いました。

大学病院・総合診療外来

月	火	水	木	金
谷口	松井	高柳	佐土原	北村
			谷口（奇数週）	

外来診療支援（医師が不足する医療機関への支援）

専任医師	支援先医療機関	支援内容
後藤	くまもと県北病院	R3.4.1～R4.3.31 週1回
後藤	宇城市民病院	R3.4.1～R4.3.31 週1回
高柳	小国公立病院	R3.4.1～R4.3.31 週1回
高柳	天草市立御所浦診療所	R3.4.1～R4.3.31 週1回

2 テレビ会議システムを活用した遠隔診療・教育支援

- 熊本県の総合診療専門医育成支援整備事業の計画に基づく県内の公的医療機関等にテレビ会議システム配備する事業が完了したことを受け、当機構としてはテレビ会議システムの更なる活用に向けた取り組みを進めています。今年度の取り組みとしては、週1回テレビ会議システムを活用した合同カンファレンスを実施するとともに、総合診療科の専攻医の指導や総合診療の特別実習を行った学生の実習指導を実施するなど支援にも努めました。

設置年度	設置場所
平成28年度	・御所浦診療所・湯島へき地診療所・そよう病院
平成29年度	・小国公立病院・公立多良木病院・上天草総合病院
平成30年度	・河浦病院・阿蘇医療センター・人吉医療センター
令和元年度	・栖本病院・新和病院
令和2年度	・国保水俣市立総合医療センター

3 熊本県地域医療連携ネットワークの構築に向けた全体調整

- 熊本県地域医療連携ネットワークの構築に向けては、地域医療連携ネットワーク実践学寄附講座と連携し、県からの医師派遣要請に基づき熊本大学病院の各診療科所属の医師を地域の中核的な医療機関に派遣し、地域内の医療機関への医師派遣や人材育成等を担うネットワークを構築するための支援を行うなど、地域医療提供体制の充実に努めています。

- 令和3年度は、当該寄附講座において13の地域医療拠点病院に常勤医師を派遣し、15の地域医療拠点病院に週1回～2回特任助教等医師を派遣しました。

III 県内医療機関等との連携協力関係の構築

1 地域の医療機関に対する助言や医療機関との連携、調整

- 地域医療・総合診療実践学寄附講座と連携して、県内の医療機関に当該寄附講座の教育拠点を設置し、地域で必要とされる医師の育成・教育機能向上を図るとともに、当該講座から派遣した教員が日々の診療を通して地域で求められる医療に適切に対応するための活動を行っています。

2 勤務環境改善支援センターとの相互連携

- 当機構としては、医師修学資金貸与医師の派遣対象医療機関における医師の働き方改革の進捗に関して、熊本県医療勤務環境改善支援センターとの情報共有に努めております。今年度も毎月1回実施している県医療政策課と地域医療支援機構担当者会議に勤務環境改善支援センターのセンター長、統括アドバイザーが出席。また、熊本県医療勤務環境改善支援センターの運営会議にコーディネーターがオブザーバーとして参加。地域医療行政に関する情報共有を図るなど相互連携に努めました。

3 県医療行政・市町村との連携

- 県医療政策課と地域医療支援機構、県医療勤務環境改善支援センター担当で月1回連絡会を開催し、事業の進め方や政策推進方策等について意見交換を行いました。

4 熊本大学病院、医学部、県が設置する寄附講座等の連携・調整

- 地域医療・総合診療実践学寄附講座とは医師修学資金貸与学生主体の地域医療ゼミや自治医科大学生も参加する夏季地域医療特別実習など各種セミナーや講演会など協力・連携して取り組んでおりますが、今年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響で夏季実習などが中止となりました。
- 熊本大学医学部はじめ関係機関との連携に努め、学生の地域医療実習等の支援を行いました。
- 修学資金貸与医師のキャリア形成についても、各診療科との連携に努め、円滑な義務の履行とキャリア形成の両立が図られるよう取り組みを進めています。

IV 医師に関する求人・求職などの情報の発信と相談対応

◆ 熊本県地域医療支援機構のホームページによる情報発信・相談対応

ホームページに相談コーナーを設け、相談窓口を設置しています。また、地域の医療機関で働いている医師修学資金貸与医師の活動レポートの搭載や、イベントの告知及びその報告なども行っています。

◆ 医師、医学生等からの相談窓口の設置

地域医療支援センターに相談窓口を設置し、県内外の医師や医学生からの相談に対応しています。

◆ 熊本県地域臨床実習支援事業の実施

県外に在住している熊本県出身の医学生や、将来熊本県で従事することを考えている医学生等が、熊本県における地域医療の現状を学ぶことを支援することにより、将来の医師偏在化の是正や医師確保につなげることを目的として熊本県地域医療臨床実習支援事業(肥後ふるさと医学生実習支援事業)を平成30年度より実施していましたが、今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため残念ながら、実施を見送ることとなりました。

● 講演

広島県山県郡北広島町 雄鹿原診療所
 所長 東條 環樹 先生

東條先生には『田舎の医療で日本を救え！』をテーマに、地域の状況に応じた医療提供体制の在り方について考える機会として、ご講演いただきました。住民の病気予防、健康増進、健康教育、治療、看取りまで、地域住民に寄り添いながら、診療所で医療を実践される東條先生のお話は、ユーモアを交えながらも地域医療の切実な課題を抱える現状を感じられた貴重な講演内容でした。

● 閉会のあいさつ

熊本県健康福祉部健康局 医療政策課
 阿南 周造 課長

◆ 知事への表敬訪問

2022年3月28日(月)に、令和3年度卒業の熊本県医師修学資金貸与学生8名が、熊本県庁を訪れ蒲島郁夫知事より激励の言葉をいただきました。また、卒業生からそれぞれ、これから地域医療を担っていく医師としての将来の抱負等を述べました。



◆ メールマガジンによる情報発信

以下の3つのことを目的とし、メールマガジンを発行しました。


- ① 熊本県内の医療関係者に対し、機構の取組みを広く周知することで理解と協力を求める。
- ② 県外在住の医療関係者に対し、熊本県内における地域医療の実情を知ってもらうことで、県内の地域医療への参加を促す。
- ③ 熊本県内で地域医療に携わる医師および医療関係者に対し、取組みの状況と今後の方向性を示すことで、孤立感の緩和とモチベーションの向上を図る。


＜対象＞


- ・熊本県と縁がある県外在住の医師及び医療関係者、県内の病院・医師
- ・県内自治体(市町村)の医療担当部署、熊本県及び郡市医師会
- ・熊本県医師修学資金貸与学生及び医師
- ・熊本出身自治医科大生及び熊本在住の自治医科大卒医師等
- ・講演会等でのアンケートでメールマガジンの受け取りを希望した医療関係者


＜発信状況＞

2021年4月から2022年3月までの間で、約890名の登録者に対し4回、熊本県地域医療支援機構の取組み等を発信しました。

-  2021/12/13
 Vol.52「医学生・研修医などをサポートするための会」セミナー開催のお知らせ

-  2022/01/14
 Vol.53「令和3年度熊本県医療人キャリアサポートクローバーセミナー」開催のお知らせ

-  2022/02/03
 Vol.55「令和3年度熊本県地域医療支援機構講演会」開催のお知らせ

-  2022/3/31
 Vol.56「CLOVER 熊本県医師キャリアサポートブック 第4版」発行のお知らせ

◆ 熊本県地域医療支援機構広報誌の発行

令和3年度も本機構の広報誌「COCODE」(ココデ)を10月(vol.2)と3月(vol.3)と2回発行しました。今年度は、vol.2で小国地域をvol.3で上天草地域を特集しました。

「COCODE」は、熊本県内の地域の医療機関で活躍する医師などを通じて、医師を志す学生や、地域の皆さんに地域医療の魅力を分かり易く、読みやすく伝えるマガジンです。複数の医療機関から問い合わせもありました。

小国町
南小国町
熊本

九州
熊本

たいせつなひとを診る。
たいせつなふるさとで、
たいせつなひとを診る。

熊本県地域医療支援機構
熊本大学病院 地域医療支援センター内
熊本市内中央通り1-1-1
TEL: 096-373-5827
http://www.kumamoto-u.ac.jp/med/med-07/

写真: 熊本県立山崎公園

ココ、熊本で、地域の医療を支える

COCODE!

ココデ

2021 Autumn
vol
2

Top Interview
小国郷地域と、
わたしが交わした
3つのミッション

小国公立病院
病院事業管理者
KEIICHIRO KATAOKA
片岡恵一郎先生

Take Free
熊本県地域医療支援機構 広報紙

2021 Autumn vol.2

WhyGP?

若手医師×学生二人座談会
総合診療医のリアルを直撃
「教えて先輩！」

日々、学びを深める医学生が抱える疑問や不安を、実際に総合診療医として活躍している若手医師に直撃！結婚、出産、育児とライフステージが変化する女性が、医師としてのキャリアを維持し、働き続けるためには？などのテーマで、女子トークを盛り広げました。

天草市立野田病院 総合診療科 早川香葉先生(左)
熊本大学医学部医学科5年 野口実奈さん(右)
熊本大学医学部医学科3年 阿部真美香さん(左)

地方の病院ってすごく忙しいんですか？

早川先生：皆さん、こんにちは。天草市立野田病院で総合診療医として働いています。医師として働き始めて5年目です。
阿部：よろしくお聞きします。わたしは非学生の頃に入院をして、その時の不安が添ってくださったお医者さんにおかれましては感謝をいたしました。
早川：私は理料の授業でIPS病院について学び、医学が進歩することでもっと人の人を助けることができるんだと思ったのが医師を目指したきっかけです。どうぞよろしくお聞きします。
野口：先生は天草市で総合診療医として働いておられますが、医師が不足しているといわれる地方で働くことは、大変じゃないですか？プライベートの時間はとれますか？
早川：初期研修終了後は、人吉市や上天草市などの病院に勤務しました。忙しいときもありますが、基本的にプライベートの時間は取れますので安心して下さいね。一概には言えないのですが、私の経験から言うと地域の病院の方がアフターフォローの比較的時間に余裕がある印象です。
阿部：治療とかも忙しいんですか？
早川：はい、しています。勤務する病院にもありますが、治療は少ないけれど、緊急時にオンコールで連絡が来る病院もあります。完全当直制のシステムを採用している病院ならば治療は週数回ありますが、それ以外の時に連絡が来ることはあるんですけど、病院によって採用しているシステムが異なるので、あらかじめ調べておくといいかもかもしれませんね。

家庭と仕事の両立ができる不安です

野口：結婚して、家庭と仕事の両立ができるの心配です。
早川：私は結婚してはいないのですが、周りには結婚して育児しながら総合診療医として活躍している女医さんもいらっしゃいます。育児を取ったり、短期勤務や遠隔勤務など活用しながら女医としてキャリアを積むことは可能です。保育園も地方の方が空きがあると聞きますし、いずれにしても育児と仕事の両立は、女性一人ですることではないので、パートナーや家族、勤務する病院の理解とサポートが必要です。
野口：阿部：熊本県でも、実際に子育てしながら地域で働いておられる女性の総合診療医の先生がいらっしゃると聞くと、安心しました。
阿部：人にしっかりと寄り添う医師にやりがい
野口：早川先生は、総合診療医になってよかったと思う時ほどな時ですか？
早川：総合診療医は、外来や入院など病院だけで医療を完結せずに、在宅診療に携ったり、ご本人や周りの人の思いなどにしっかりと向き合います。“人”にしっかりと寄り添う業務の医療を提供することで、患者様やご家族に喜んでいただきたくはとてうれしいですね。“女性の先生は話しやすい”と心を開いてくださる患者さんも多くて、総合診療医は、女性にとってやりがいのある仕事だと感じます。

阿部：総合診療医は、幅広く知識を持っておこなうじゃないかなという感じがしますが、すべてのことに精通するのは大変じゃないですか？すごく不安です。
早川：若いじゃない、おばあちゃんから小さな子供まで診療しながら総合診療医として活躍している女医さんもおられます。自分がいたときは、自分一人で抱え込まず、より専門の検査ができる病院に申し送りしたり、同僚の先生や学生時代の友人に相談したりしています。“なんか気になるな”と同時に判断する力を養うには、経験を積んでいくことが大事かなと思います。
野口：院外の勉強会などにも参加する機会ありますか？
早川：最近はおオンラインの勉強会が充実しているので、本当にありがたいですね。天草に住んでいても平日の診療が終わった後に、サタデー勉強会に参加できるなんて、コロナ前だと考えられませんでした。
阿部：ところで、地方に勤務する女医さんって、ぶっちゃけ“出会いの場”ってあるんじゃないですか？(笑)
早川：いっぱいあるわけじゃないですけど、バレーボールやバドミントンなど地域の運動会のサークルとかに入るといってん出会いがありますよ。あとはお世話好きの看護師さんが紹介してくださったりとか(笑)。
阿部：学部の仲間、大学の“同志”です
野口：学部にこれだけはやっておいた方がいいってことはありますか？

熊本大学医学部医学科3年 阿部真美香さん
熊本大学医学部医学科5年 野口実奈さん

早川：とにかくわからないことは周りの人に聞いて、その場で解決しましょう。医師として経験を積んでもわからないことはできますし、経験を積み重ねればわかるけどわからないことがないからいいですね。天草に住んでいても平日の診療が終わった後は、サタデー勉強会に参加できるなんて、コロナ前だと考えられませんでした。いざいざ友達を作ること、学部の友人たちは、今後もある人になると思います。交流があったりする“同志”のような存在になると思います。
野口：早川先生、今日は貴重なお話をありがとうございました。患者さんに信頼されるような医師になれるよう頑張ります。
阿部：わたしも患者さんのちょっとした変化にも気づけるような心配ができる医師になれるように頑張ります。
早川：目標をもって頑張っておられるお二人のお話を聞き、大変おもしろいと思いました。今は短期勤務や遠隔勤務といった形で女性医師が増えてくることは、特別なことではなくなってきました。いろんな働き方があるので自然体で頑張ってくださいませ。

ココ、熊本で、地域の医療を支える。

たいせつなひとを診る。

たいせつなふるさとで、

熊本県地域医療支援機構
熊本大学病院 地域医療支援センター内
熊本市中区本庄1-1-1
TEL:096-373-5627
http://www.chiki-ryo-kumamoto.org/
ご登録、ご要領お待ちしております。

2022 Spring Vol.3

COCODE!

ココデ

2022 Spring vol.3

Top Interview
上天草地域と、わたしが交わした3つのミッション。
上天草市立上天草総合病院
診療部長兼内科部長
MASAFUMI WADA
和田正文先生

Take Free
熊本県地域医療支援機構 広報誌

WhyGP?

熊本大学総合診療科 天草教育拠点 特任助教 松本朋樹先生
熊本大学医学部医学科5年 渡邊光砂さん
熊本大学医学部医学科3年 廣橋介さん

若手医師×学生二人座談会
総合診療医のリアルを直撃「教えて先輩！」

日々、学びを深める医学生が抱える疑問や不安を、実際に総合診療医として活躍している若手医師に直撃する人気企画！今回は天草地域医療センターで総合診療医として働く松本朋樹先生に、学生二人が、総合診療医に必要な能力などについて聞きました。

総合診療医に必要な能力って？

Q:お二人は、総合診療医に必要な能力って何だとお考えですか？
A:私は患者さんに心を配ってもらえるような人が大切だと思います。
B:コミュニケーション能力と、診療においての広い視野が必要だと思います。
C:私は患者さん安心して診てもらうような話しやすいコミュニケーション力は大事だと思っています。医師としての視点というのを忘れずにしています。「鳥の目、虫の目」という言葉がありますが、虫のように近くから患者さんに寄り添う視点と、空を飛ぶ鳥のように、物事を俯瞰する目が必要で、患者さんやご家族が望まれる治療でも、医師としてその治療が妥当か否かを判断し、お互いが納得するゴールに向かって信頼関係を築きながら進めていくことが大事だと思います。

人生経験と診療経験を相互に高めたいのが総合診療医の醍醐味

Q:すばい総合診療医の魅力は何だと思いますか？
A:どんなに体が思うように動かなくても、獲れた時間がわずかであっても、「自分の人生を自分で決める方々」を見てきました。その決断を共に悩み、支え、時間を過ごすことも医療者の役割であり、やりがいを感じます。また、私は、総合診療医として、乳児健診や小児診療をやってきました。今年子どもができて、父親となって改めて、子供の発熱で緊急外来を感受する親御さんや健診で子供の発達を心配する親御さんの気持ちが凄まじくわかりました。総合診療医であることは、自らの子育てにも役に立ち、一人の子どもの父親であることは、診療する上でとても役に立ちます。人生経験と診療経験を相互に高め合っていくというのが総合診療医の醍醐味ではないでしょうか。
B:私はふるさとの天草で総合診療をやりたいという夢があります。天草で地域医療に尽力されている松本先生のお話は、とても勉強になりました。
C:1つ卒業に医師として自分がどうなっているかのイメージが持てなかったんですが、松本先生の話を聞いてとてもためになりました。
D:へき地医療は大変な側面もありますが、その土地の命を一緒に切り取っていくことは、医師としてだけではなく、人間として覚悟を持って取り組むことだと思います。熊本を医療を支えていくお二人に期待しています。

医学情報がどんどんアップデートされる現代は、いかに早く正確な情報にたどり着くかがカギ

Q:地方にいて幅広い知識のアップデートができるのが羨になります。
A:最新の医学知識を学び覚えることも大事ですが、いかに早く正確な情報にたどり着くかがカギになってきていると思います。たとえば急いで、疑問などが出てきたときに、「UpToDate」(*)などを利用して5分以内に正確な情報にたどり着く能力が求められるんですね。その能力を身に付けるには、テキストの精読のみ合いに何度も検索してスキルを磨くことが大切です。
B:「UpToDate」-診療の原、医師が適した情報に、即座に実際の症例を得られるようデザインされたエビデンスに基づく臨床判断決定支援システム

VI 女性医師キャリア支援

熊本県女性医師キャリア支援センターでは、①復職支援 ②短時間勤務 ③育児支援 ④メンター制度 ⑤セミナー(啓発活動)を5つの柱にキャリア支援を進めることが重要と考え活動しています。

今年度は以下の事業に取り組みました。

◆ 相談件数

令和3年度(令和3年4月1日～令和4年3月31日まで)の相談件数は、総計18件(対面件6、電話5件、メール7件)でした。

▼ 相談内容の内訳(延べ相談数)令和3年4月1日～令和4年3月31日現在

お留守番医師制度について	1件	復職相談	0件
働くこと働き方について	6件	メンター制度について	0件
求人の問い合わせ	4件	同僚・医局の医師について	0件
保育施設について	2件	子育てについて	0件
支援制度についての問い合わせ	4件	社会保障等について	0件
ネットワークづくり	2件	マタニティ白衣・パンツ	2件

今年度は「働き方について」「支援制度」「求人」に関する問い合わせの相談が多い傾向でした。

◆ 復職支援(お留守番医師制度)

週1回(場合によっては月1回も可能)から復職したい方へ「お留守番医師制度」を設けています。

「お留守番医師制度」では、家庭との両立や自身の健康などに不安を抱える方にも復職しやすい環境の協力機関(現在20医療機関)と連携しています。

在宅医療を開始したい医療機関にとっては代診医師の確保に繋がり、地域住民にとっては、かかりつけ医の訪問診療を受けることが可能になるwin-win-winの相互システムです。

診療所の先生方
訪問診療時間に「お留守番Dr」システムを利用してみませんか?

かかりつけの患者さんの訪問診療をお断りされたことはありませんか?
訪問診療に割く時間がないし、
ましてやもう一人医師を雇う経済的な余裕なんて・・・

解決策です

長年培われた先生と患者さんの関係をそのまま継続し、
患者さんの自宅に赴く訪問診療に取り組まれば、
いかがでしょうか?

貴院の外来診療に協力してみようと思っている医師に、
医療機関の情報を開示し、まずは体験の機会を得て頂く
システムです。
条件が合えば外来診療の協力が繋がればと思います。

県下各地域で伺ったお話を元に、在宅医療へ取り組む医師への応援団として、
この事業を企画しました。
県内どこへでも、詳しい説明に参ります。地域の先生方にもお声かけいただければ幸いです。

お問い合わせ：熊本県地域医療支援機構(熊本大学病院 地域医療支援センター内)
TEL:096-373-5795
メールアドレス: k-joesishi@kumamoto-u.ac.jp
復職支援コーディネーター 高野 真子

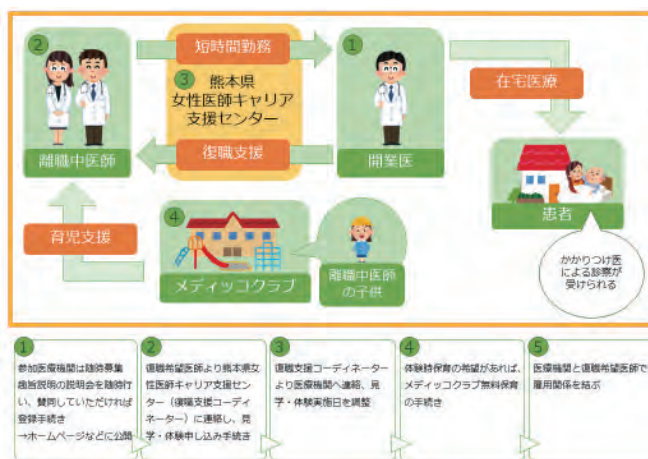
▼ お留守番医師制度に加入している医療機関 (2022年3月31日時点)

熊本市東区	平山ハートクリニック
熊本市南区	土井内科クリニック
熊本市南区	御幸病院
熊本市北区	清藤クリニック
熊本市北区	なかむらファミリークリニック
阿蘇郡	阿蘇立野病院
菊池市	宮本内科クリニック
荒尾市	西原クリニック
玉名市	ひがし成人・循環器内科クリニック
玉名市	河野医院
上益城郡	益城なかぞのクリニック
上益城郡	谷田病院
上益城郡	山地外科胃腸科医院
宇土市	宇土中央クリニック
水俣市	山田クリニック
宇城市	済生会みすみ病院
熊本市中央区	明午橋内科クリニック
熊本市北区	まえだクリニック
菊池市	菊池都市医師会立病院
宇城市	中村医院

熊本県女性医師キャリア支援センターの復職支援コーディネーターが復職希望者の体験申込みを受けて在宅医療を開始したいドクターと繋ぎ体験日を決めます。体験が上手くいけば当事者同士で3か月更新の契約を結びます。この制度で勤務中には、体験時のみ熊本市医師会保育所「メディッククラブ」が無料で利用できます。

今年度のお留守番医師制度の体験者はいらっしゃいませんでしたが、平成28年度開始からの利用者は体験のみも合わせ7名です。

現在2名の医師が継続されています。



◆ マタニティ白衣・マタニティパンツの貸出しサービス

熊本県女性医師キャリア支援センターでは、熊本県内に在住の妊娠中の医師にマタニティ白衣・パンツを無料で貸出ししています。

マタニティ白衣について

- サイズはSとMがあります。
- 胸元、腰元にアジャスターがあり調節ができます。

サイズ	着丈	バスト	肩幅	袖丈
S	90	112	38	51
M	95	116	39	51

マタニティパンツについて

- サイズはMのみです。
- 腰元にアジャスターがあり調節ができます。
- 色はネイビーのみです。

サイズ	腰 囲	ヒップ	股上	股下
M	85~100	102	27	68

今年度の利用者は2名でした。今後も妊娠中から気軽にご相談できる雰囲気づくりに努め、是非多くの医師にご利用いただきたいと思います。

＜利用者の感想＞

- ・ お腹が大きくてもボタンをとめて白衣が着られたのが一番良かった。外来の時もありお腹も目立たなかったようでした。

◆ 短時間勤務

今年度も熊本県内病院の管理者及び各診療科の部長に対し短時間勤務と復職に関するアンケートを実施しました。

短時間勤務を応援してくれる診療科及び病院は、熊本県内46施設でした。

復職を応援してくれる病院・診療科は、熊本県内9施設でした。(うち復職プログラムがある病院・診療科は8施設)

短時間勤務制度と復職を応援する診療科と応援メッセージは、CLOVER冊子第4版とウェブサイトに関し情報提供を行いました。

短時間勤務に関するパンフレットのスクリーンショット。左側には院長の挨拶と短時間勤務のメリットが紹介されています。右側には短時間勤務の制度内容がまとめられています。

短時間勤務を応援する病院・診療科

病院名	短時間勤務を応援する診療科
熊本大学病院	産科、産科外来、産科手術、産科看護、産科救急、産科ICU、産科NICU、産科ICU、産科NICU、産科手術、産科看護、産科救急
熊本県立総合医療センター	産科、産科外来、産科手術、産科看護、産科救急
熊本県立中央病院	産科、産科外来、産科手術、産科看護、産科救急
熊本県立西病院	産科、産科外来、産科手術、産科看護、産科救急
熊本県立南病院	産科、産科外来、産科手術、産科看護、産科救急
熊本県立東病院	産科、産科外来、産科手術、産科看護、産科救急
熊本県立北病院	産科、産科外来、産科手術、産科看護、産科救急
熊本県立南西病院	産科、産科外来、産科手術、産科看護、産科救急
熊本県立北西病院	産科、産科外来、産科手術、産科看護、産科救急
熊本県立南東病院	産科、産科外来、産科手術、産科看護、産科救急
熊本県立北東病院	産科、産科外来、産科手術、産科看護、産科救急

短時間勤務

勤務時間で困っている方

やりがいのある仕事を続けたい、せつかく獲得した技術を伸ばしたい、などと育児や介護でフルタイム勤務は難しいという方に、短時間勤務を応援してくれる。関係各部署との連携を提供いたします。また、各病院への名称、問い合わせなどを代行します。お気軽にご相談ください。

短時間勤務を応援している病院

◆ 地域の医療機関に勤務する女性医師支援

地域に勤務する修学資金貸与医師、自治医科大学卒の女性医師を対象に地域毎にオンラインで交流会を開催しました。勤務先も年齢も違う医師同士、勤務状況や今後のキャリア、抱えている悩み等を自由に話せる情報交換と交流の場となりました。

交流会を通して挙がった問題点としては、勤務先での子供の預け先の問題(保育園・病児保育)、出産後の働き方、結婚後の勤務地に関する課題(義務履行のため単身赴任になる)、新専門医制度の開始に伴う(自治医科大学卒の医師の)専門医取得における課題など生活環境や育児、キャリアについての悩みが多く挙がりました。ここで出された問題点については、県との連絡会議で報告し課題の共有を図りました。

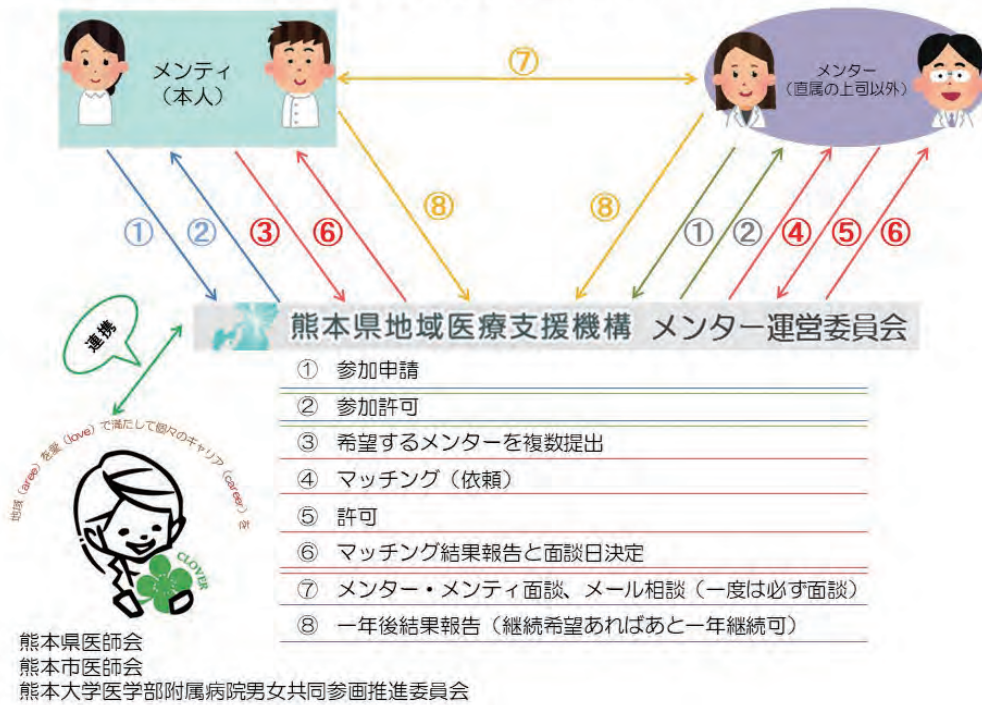
今後も地域で働く医師と面談を行い、問題点を協力機関や勤務先と連携し解決に向けて支援していきたいと思います。

◆ メンター制度

メンター制度とは、キャリアについて、ワークライフバランスについて、先輩に悩みを聞いてもらい、一緒にキャリアやライフの目標設定を考える取り組みです。気軽に取り組めるよう、メンター・メンティの関係性は1年間限定とし、希望があればさらに1年間延ばすこととしています。

現在、メンターとして28名の男女医師が登録しており、今年度はメンティとして1名の女性医師が登録を更新されました。

熊本県地域医療支援機構女性医師メンター制度イメージ図



◆ メンター・メンティ交流会

毎年、メンター自身のスキルアップを目的に「メンター連絡会議」を開催していましたが、新型コロナウイルスの影響もあり開催することができませんでした。そのため、今年度は地域で働く女性医師を対象にメンター・メンティ交流会を4回開催し、8名の医師にご参加いただきました。

	日時	地域	開催方法	参加者
第1回	令和3年5月31日(月)18時～	阿蘇地域	ZOOM	3名
第2回	令和3年7月8日(木)18時～	県北	ZOOM	1名
第3回	令和3年9月29日(水)18時～	天草・八代	ZOOM	2名
第4回	令和3年12月8日(水)18時～	市内・球磨	ZOOM	2名

◆ クローバーセミナー

令和4年2月16日(水) 19:00～20:30
熊本大学大学院生命科学研究部 臨床医学教育研究センター1階
奥庭記念ホール及びオンライン

【対象】 県内病院の管理者、現職・研修医・学生医及び医師・看護師、大学病院医務局
女性科等コーディネーター及びその他関係者、県内の医療関係者等

クローバーの会活動報告
熊本大学病院 総合産科産科センター 講師 坂本 理恵子 先生

事例紹介
熊本大学病院 産科産科センター 講師 坂本 理恵子 先生

「長崎あじさいプロジェクトのこれまでとこれから」
長崎大学病院 産科産科センター 講師 藤 貴子 先生

「日本の女性医師が抱える課題点と今後目指すべき医療人キャリア教育」
熊本大学 人文社会科学部 臨床学専攻 教授 渡邊 洋子 先生

日本医師会生涯教育単位 1.5 単位
カリキュラムコード 0 その他

【参加費】 無料
【申込】 熊本県地域医療支援機構、熊本大学附属病院男女共同参画推進委員会
【申込先】 熊本県地域医療支援機構、熊本大学附属病院男女共同参画推進委員会
【申込先】 熊本県地域医療支援機構、熊本大学附属病院男女共同参画推進委員会

令和4年2月16日(水) 19:00～20:30 Web開催
熊本県医療人キャリアサポートクローバーセミナー
「医療人キャリアサポートのこれまでとこれから」

今回は『医療人キャリアサポートのこれまでとこれから』をテーマに、熊本県での医師のキャリア支援の取り組み、熊本大学病院に勤務されている女性医師より事例の紹介と、講師の先生お二方に長崎県での取り組みや、今後の医療人キャリアサポートのあり方等についてご講演いただきました。

【参加者】31名

●開催の挨拶

熊本県地域医療支援機構理事長
熊本大学病院 病院長
馬場 秀夫 先生



●クローバーの会活動報告

国立病院機構熊本医療センター院長
熊本県医師会男女共同参画担当理事
クローバーの会会員 高橋 毅 先生



●事例紹介

熊本大学病院 総合周産期母子医療センター
講師 坂本 理恵子 先生



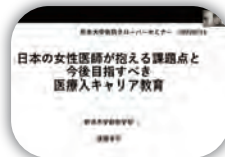
●「長崎あじさいプロジェクトのこれまでとこれから」

長崎大学病院 メディカル・ワークライフバランスセンター
副センター長 南 貴子 先生



●「日本の女性医師が抱える課題点と今後目指すべき医療人キャリア教育」

新潟大学 人文社会科学系 創生学部担当
教授 渡邊 洋子 先生



●閉会の挨拶

熊本大学病院男女共同参画推進委員会 委員長
宮本 健史 先生



◆ 令和3年度 熊本県医師キャリア支援に関するアンケート調査

令和3年度の熊本県医師会男女共同参画委員会・熊本県女性医師キャリア支援センター・熊本大学病院男女共同参画推進委員会によるアンケート調査では、熊本県内の全病院の所属医師を対象に、専門医取得・宿日直・子育て支援などに関する半構造化webアンケートを実施しました。ご協力いただきました病院様、医師の皆様には深く感謝申し上げます。結果の詳細は別にWebページなどで公表予定ですので、ご参照いただければ幸いです。

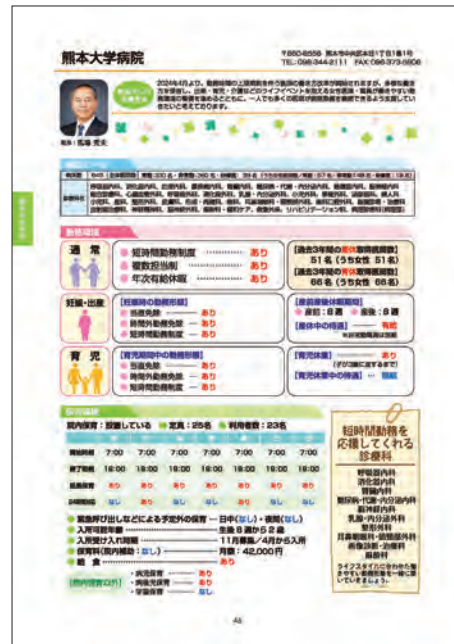
今回の結果からは、どの医師も等しく各々の家族・仕事に責任を負うことができ、働きやすい環境を整備するためには、女性の専門医取得を促進し、男性の過重労働を解消する必要があることが明らかとなりました。また、育児支援として最もニーズが高かったのは男性の育児参加休暇取得支援でした。今年度作成したCLOVER冊子第4版でも、育児休業取得された男性医師の存在が明らかとなり、今後男性医師の育児参加に対する上司・同僚のさらなる理解と制度の浸透が望まれます。

◆ 学生への啓発活動

- 1学年講義：令和3年6月14日 医学概論 「医師のキャリア形成、多様性推進」
- 4学年講義：令和3年6月16日 医療と社会Ⅰ 「男女共同参画」 オンライン講義
- 熊本県医師会主催 令和3年度 医学生・研修医をサポートするための会「専門医を取得する！」

◆ 広報活動

- ホームページ、携帯サイトの運営
- ホームページでは「復職支援」「短時間勤務」「育児支援」「メンター制度」「セミナー情報」「求人情報」「マタニティ白衣の貸出」「相談窓口」「介護情報」などを掲載しています。
- Facebook 及び Twitter のネットワークによる情報交換・情報の共有を図っています。
- CLOVER 熊本県医師キャリアサポートブック第4版 2000部作成（下記参照）、熊本大学病院男女共同参画コーディネーターの会、熊本大学病院各診療科、お留守番医師制度登録医療機関、メンター候補者や熊本県内の医療機関へ配布しました。



◆ その他セミナー

令和4年度医学生・研修医をサポートするための会セミナー

2022年1月24日(月)
18時30分～20時00分

総合診療科専門医取得に向けて
球磨郡公立多良木病院 内科・総合診療科 平賀 円 先生

新内科専門医制度について
菊池都市医師会立病院 腎臓内科 濱口 亜実 先生

産婦人科専門医の向こう側へ
～見つけよう、あなただけのサブスペシャリティ～
熊本大学病院 産科・婦人科 小寺 千聡 先生

未来を創る子どもたちを守るのが小児科専門医
～仕事を「志事」に変えるために～
慈恵病院 小児科 森 博子 先生

専門医を取得する!

・ 場 所 熊本県医師会館またはオンライン
・ 対 象 医学生、研修医、若手医師
・ 参加費 無料
・ 申し込み方法
記載のQRコードまたは
裏面FAX用紙よりお申込みください

主催：熊本県医師会
共催：日本医師会・熊本大学病院地域医療支援センター
お問い合わせ：熊本県医師会事務局 ☎ (096) 354-3838

(共催)
医学生・研修医をサポートするための会セミナー
「専門医を取得する」
講師：球磨郡公立多良木病院 平賀 円 先生
菊池都市医師会立病院 濱口 亜実 先生
熊本大学病院産科・婦人科 小寺 千聡 先生
慈恵病院 小児科 森 博子 先生

令和4年1月24日(月) 18:30～20:00
Web開催(地域医療ゼミとの合同セッション)